

Title	文末助詞 "吧" の機能についての統一的説明
Sub Title	A unified analysis of the functions of the sentence-final particle BA
Author	黄, 琬婷(Huang, Wanting)
Publisher	慶應義塾大学外国語教育研究センター
Publication year	2011
Jtitle	慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.8, (2011.) ,p.23- 45
JaLC DOI	
Abstract	以往研究显示, 语尾助词"吧" 的语法功能大致可分为表示"推量", 表示"确认要求", 与表示"命令"。但是, 以往研究对于"吧" 各个功能之间的关联并未能提出统一的解释。本文以"吧" 的"推量" "确认要求" 与"促使" 功能作为研究对象, 探讨这些功能之间的关联性以及功能之间扩张的过程。本文认为"吧" 功能的扩张过程应是从"推量" 功能扩张到"推量确认" 功能, 接着再扩张到"认识确认" 功能, 最后再扩张到"促使" 功能, 形成一个功能的连续体。并且, 本文还导入基模概念, 从"吧" 的复数功能中抽取出共通的抽象概念为"事态发生的盖然性高"。藉由探讨"吧" 复数功能的扩张关系与基模, 进而掌握"吧" 所表示的整体范畴为何。
Notes	研究論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20110000-0023

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

文末助詞“吧”の機能についての統一的説明

黄 琬 婷

以往研究显示，语尾助词“吧”的语法功能大致可分为表示“推量”，表示“确认要求”，与表示“命令”。但是，以往研究对于“吧”各个功能之间的关联并未能提出统一的解释。本文以“吧”的“推量”“确认要求”与“促使”功能作为研究对象，探讨这些功能之间的关联性以及功能之间扩张的过程。本文认为“吧”功能的扩张过程应是从“推量”功能扩张到“推量确认”功能，接着再扩张到“认识确认”功能，最后再扩张到“促使”功能，形成一个功能的连续体。并且，本文还导入基模概念，从“吧”的复数功能中抽取出共通的抽象概念为“事态发生的盖然性高”。藉由探讨“吧”复数功能的扩张关系与基模，进而掌握“吧”所表示的整体范畴为何。

1. 問題提起と研究目的

“吧”の意味・機能の考察に関しては既に優れた研究が行われている¹⁾。“吧”の本来の意味に関して、胡明扬 1981b:416 では、「発話内容に不確定な語気を付与する（“赋予说话内容以不肯定的口气”）」と定義されている。また、贺阳 1992:62 は“吧”は「非確信語気²⁾（“非确认语气”）」を表すと論じ、それは「話し手が文の内容に疑問を持ち、確信することができないことを表す³⁾（“说话人对句子内容有所疑惑，而不能确信无疑”）」であると説明している。张谊生 2000:268 は“吧”が「話し手が自分の考え方に対して確信を持ってないことを表す（“表示说话人对自己的看法不很肯定”）」と論じている。以下、従来諸研究における“吧”の典型的な例を挙げる⁴⁾。

(1) 「推量」

甲：明天天气怎么样？（明日の天気はどうですか）

乙：明天下雨吧。（明日は雨だろう）（木村・森山 1992:28）

(2) 「確認要求」你是赵先生吧？（あなたは趙さんでしょう？）（CCL）

(3) 「命令」你过来吧！（来なさいよ！）（CCL）

(1) は明日雨が降ることについて推量する例、(2) は聞き手が趙さんであるか否かを確認す

る例、(3)は聞き手に早く来ることを促す例である。張誼生 2000によると、“吧”の使用により、(1)は“明天下雨(明日は雨)”という命題が不確かであること、(2)は自分の抱いている疑問が正しいと証明されてほしいことが表され、(3)は命令の語気が緩和されるという。

しかし、従来の諸研究は(1)(2)の“吧”を説明する際には有効であるが、(3)の命令文に使用される“吧”の発話状況を説明するのが難しい。その理由として、以下二点が挙げられる。まず第一に、“吧”が命令の意味が含まれる全ての状況で使用されるわけではないという点である。

(4) (いきなり聞き手に命じる場合)

a. 你过来!(来なさい!)

b. ?你过来吧!(来なさいよ!)(作例)

(5) (一般的にチケットを求める場合)

a. 给我一张门票。(チケットを一枚ください。)

b. ?给我一张门票吧。(チケットを一枚くださいよ。)(作例)

(4)は何の予告もなく、いきなり聞き手に来ることを命じる場面である。(5)はチケット売り場で係員にチケットを求める状況である。この場合、(4a)(5a)は自然であるのに対し、“吧”を伴った(4b)(5b)は不自然である。先行研究の主張に従うと、(4)(5)では「発話内容に不確定な語気を付与する(“赋予说话内容以不肯定的口气, 胡明扬 1981b:416)”あるいは「非確信語気(“非确认语气, 贺阳 1992:62”)」を表す“吧”が、命令の語気を緩和するために使用されるはずである。しかし、実際に中国語ネイティブにとって、(4)(5)における“吧”の付与が不自然だと感じられるのは事実である。

一方、(6)(7)のような発話状況であれば、“吧”は使用可能となる。

(6) (最初は相手が来ることを断ったが、その後相手に許可を出す場合)

我弄好了, 你过来吧!(終わったので、来ていいよ!)(作例)

(7) (ある特定のチケットを入手する場合)

(略) 我也知道一票难求, 可是我打心底真的超想见到付辛博的, 姐姐就给我一次机会好不好, 就这一次, (略) 求求你赐给我一张门票吧!

(チケットが入手しにくいことは分かっています。でも、心から本当に付辛博に会いたくて堪らないのです。お姉さん、一回チャンスを下さいませんか。今回だけでも。(略) お願いします。どうかチケットを一枚譲って下さいよ!)(中文网)

(6) (7) の“吧”はある特定の状況の下で使用されたものである。なぜこのような発話状況が付与されると、“吧”の使用が成り立つのであろうか？ 従来の研究は、(6) (7) のような“吧”に対し、語気緩和の効果を有するという語用論的な解釈を講じているものの、その成立理由については見過ごされがちである。“吧”を考察する際、(3) (6) (7) の“吧”の成立に納得できる解釈を与えないといけない。

第二に、「命令文」と「非確信語気（“非確認语气”）⁵⁾との矛盾という点である。先行研究で論じられてきたように、“吧”が「非確信語気」を表すものとするならば、“吧”を伴う発話内容から、聞き手が「その発話内容は話し手にとって不確かである」と理解するのは当然である。しかし、命令文の場合、「非確信語気」という解釈は適用することが難しい。何故なら命令文は基本的に相手にある行為を実行する、あるいは実行しないことを要求するものだからである。命令文に“吧”が付けられると、話し手は当該発話内容に対して不確定であると判断する。すると、聞き手側にとって、話し手がその動きを実行してほしいのかどうかについて戸惑いが生じる可能性がある。すなわち、「非確信語気」という従来の解釈は相手に何かを実行させるために発する命令文の機能と矛盾すると考えられる⁶⁾。

齊沪扬 2002:110 は、“吧”が文法化を経た結果、現代中国語では、「命令語気（“祈使语气”）」と「推量語気（“揣测语气”）」という二つの主要な機能が残存していることを指摘している。齊沪扬 2002 の論点から、(3) (6) (7) の“吧”は語用論的なものではなく、一つの独立した機能として扱える。しかし、齊沪扬 2002 では“吧”から生まれた「命令語気（“祈使语气”）」と「推量語気（“揣测语气”）」との間の関連性については納得のいく説明がなされていない。また、徐晶凝 2008 は“吧”が命令文で使用される頻度（約56%）は疑問文に比べ比較的高いと述べている。使用頻度の高いことは、命令文が“吧”の使用全体の中において極めて重要な位置を占めるということを示唆している。以上の研究を踏まえ、本稿は(3) (6) (7) の“吧”を一つの独立した機能として捉え、その成立理由が“吧”の機能間の関連性を探る手掛かりになることを指摘する。

また、“吧”の全体的な機能を統一的に説明するには、“吧”の機能を区別するだけでなく、機能と機能との間の関係を説明する必要があると考えられる。本稿は(1) (2) (3) (6) (7) の“吧”を一つの機能的な繋がりとして捉え、これらの機能の関連性及び拡張のプロセスを明らかにすることを目的とする。まず、従来の研究結果を踏襲し⁷⁾、“吧”には「推量」((1))、「確認要求」((2))、「促し」((3) (6) (7))⁸⁾という三つの機能があることを認める。次に、(1) を“吧”のプロトタイプの機能とし、(2) (3) (6) (7) をそのプロトタイプの機能から拡張したものとして捉えた上で、“吧”のプロトタイプの機能((1))と他の機能((2) (3) (6) (7))との関連性について指摘する。さらに、スキーマの概念を導入し、“吧”の複数の機能に共通する抽象的な意味を抽出する。“吧”の機能全体に共通するスキーマを論じることにより、“吧”が形

成するカテゴリ全体を統一的に捉えることが可能になると考えられる。

2. “吧”の機能拡張

“吧”の各機能の議論に入る前に、まず、第1節で挙げた(3)(6)(7)のような命令文に用いられる“吧”の名称について検討する。《現代汉语虚词例释》1996:68は、命令文に使用される“吧”について、「要請、催促、確認要求の語気を表す(“表示请求、催促、商量的语气”)」と多義的に説明している。

(8) (ある特定のチケットを入手する場合)

(略) 我也知道一票难求,可是我打心底真的超想见到付辛博的,姐姐就给我一次机会好不好,就这一次,(略) 求求你赐给我一张门票吧!

(チケットが入手しにくいことは分かっています。でも、心から本当に付辛博に会いたくて堪らないのです。お姉さん、一回チャンスを下さいませんか。今回だけでも。(略) お願いします。どうかチケットを一枚譲って下さいよ!) (= (7))

(8)はある特定のチケットのため、相手に熱心に頼んでいる場面である。《現代汉语虚词例释》1996によれば、(8)の“吧”は「要請を表す(“表示请求”)」あるいは「催促を表す(“表示催促”)」両方での解釈が可能となってしまう。(8)では、相手がチケットを譲渡してくれることを促すために“吧”が使用されていると考えられる。本稿では、《現代汉语虚词例释》のように、(8)の“吧”を多義的に解釈するより、聞き手にある行動を実行させるよう働きかけると統一的に解釈したほうが適切であると考え、命令文に用いられる“吧”の機能を「促し」の“吧”と呼ぶ。

以下では、“吧”の機能である「推量」、「確認要求」、「促し」について順次議論を進めていく。

2.1 「推量」の“吧”

まず、“吧”と諾否疑問文の“吗”を比較してみたい。

(9) 明天下雨吗? (明日は雨が降りますか?) (作例)

(10) 明天下雨吧。 (明日は雨だろう。) (= (1))

(9)は明日雨が降るか否かについて分からないこと、即ち疑問を表す例である。一方、(10)では“吧”によって、明日は雨が降るかもしれないという話し手の推量が示されている。邵敬敏 1996:73は“吧”を伴う疑問文を「疑問の程度が低い(“低疑问句”)」であると指摘し、その

疑問の度合は「確信 3/4、疑問 1/4 (“信 3/4、問 1/4)」、あるいは「信が疑よりも大きい (“信 大于疑) 」であると論じている。つまり、“吧” が表す性質には、その命題内容に対する確信部分が多く含まれ、不確定の部分は一部に止まると主張しているのである。本稿では、「推量」の“吧”を次のように規定する。

(ア) 「推量」の“吧”の機能：

命題が真であることに対する話し手の期待が大きいことを表す。

ある命題内容に対して、それが恐らく真であると話し手が大きく期待していることを表すのが「推量」の“吧”である。命題内容が真であるという判断はあくまでも話し手本人の期待に止まるため、それを完全に断定することは不可能である。その結果、“吧”は当該の命題が不確かであることを表すことになる。例えば(10)の“明天下雨吧(明日は雨だろう)”では、“吧”の付与によって、“明天下雨(明日は雨)”という命題内容が恐らく真であるという話し手の期待が大きいことが表されている。しかし、明日は雨が降ると完全に断定することはできないため、“吧”が最終的に表すのは話し手の不確かな態度であるといえる。

このことは、“吧”が不確かさを表す副詞と共起しやすいことから傍証される。

- (11) 陈玉立一直坐在旁边听我们谈话, 我不知道为什么她的两眼一直在奚望脸上骨碌骨碌地转(略)。大概是奚望今天的态度使她相信他是改变了吧, 现在她也露出了笑脸, 参加到我们的谈话中来了。

(陳玉立はずっとそばに座って、私たちの話を聞いていた。なぜか彼女の両目はずっと奚望の顔にくぎづけで、くるくると動いている(略)。たぶん、奚望の今日の態度が彼は変わったと彼女に信じさせたのだろう。今では、笑みを浮かべて、彼女も話に加わってきた。)(中日)

(11)の“是奚望今天的态度使她相信他是改变了(奚望の今日の態度が彼は変わったと彼女に信じさせたのだ)”は、話し手が「彼女の様子」から下した判断であり、あくまでも話し手がこうであろうと期待しているものである。よって、“吧”は最終的にその命題が不確かであることを表し、副詞“大概(たぶん)”と併用できる。

また、前述したように、本稿では「推量」を“吧”のプロトタイプ的機能として認定する。その根拠として、特定の文脈への依存傾向という点が挙げられる。“吧”の機能のうち、「確認要求」と「促し」は特定の文脈に依存する傾向が「推量」の“吧”より高く、特定の文脈に依存しなければその機能が成立しない⁹⁾。それに対し、「推量」の“吧”は特定の文脈に依存す

る傾向が相対的に低いと考えられる。このことから、「推量」の“吧”の方がよりプロトタイプの的であり、「確認要求」や「促し」は「推量」からの拡張機能であるということがいえる¹⁰⁾。次節では、“吧”のプロトタイプの機能である「推量」がどのようなプロセスで「確認要求」機能に拡張していくかを考察する。

2.2 「確認要求」の“吧”

本節では、“吧”の二つ目の機能である「確認要求」¹¹⁾の性質を考察し、「確認要求」と「推量」との関連性を論じる。

木村・森山 1992 は、“吧”の「確認要求」の機能を、「命題内容が話し手にとって自明の事柄であるか否か」という基準に基づき下位分類している。この分類によって、“吧”の「確認要求」には、性質を異にする二つの機能が存在することが明確に示されている。

図 2.1 木村・森山 1992 における“吧”の確認要求機能の分類

(図は筆者による)

- “吧”の確認要求
- ① 自明度が低い事柄¹²⁾：
(12) 已经过了十点了吧¹³⁾。(もう十時過ぎたでしょう。)
 - ② 自明の事柄：
(13) 说来说去，我是四川人吧，还是我比你吃辣。
(何のかのと言っても、私は四川の人間でしょう、やはり辛いものはあなたよりも強いですよ。)

(木村・森山 1992:29)

(12)の“吧”は、話し手が命題に対し断定せず、聞き手に確認するものとして理解される。一方、(13)は(12)と同じく聞き手に確認を行う場面であるが、話し手自らが命題の真偽を断定できるという点で(12)と異なる。本稿では木村・森山 1992 の分類を踏まえ、“吧”の「確認要求」をその確認の性質の差異に基づき、「推量確認」((12))と「認識確認」((13))に分類する。また、「確認要求」の“吧”の機能を(イ)のように規定する。

(イ) 確認要求の“吧”の機能：

話し手が持っている情報を、それを知っているはずの聞き手に確認する。

以下、(イ)の定義に従い、“吧”の二つの確認要求機能について考察を進める¹⁴⁾。

2.2.1 「推量確認」の“吧”

まず、本稿は「推量確認」の“吧”¹⁵⁾の機能を次のように規定する。

(ウ) 「推量確認」の“吧”の機能：

命題が真であることを話し手が断定するには至っていない場合に、命題が真であるという自らの推量を聞き手に確認するもの。

「推量確認」の“吧”が用いられる場合、話し手は、聞き手への確認を通じて、自らの推量が正しい方向に導かれることを期待している。

(14) 已经过了十点了吧。

(もう十時過ぎたでしょう。)(木村・森山 1992:30)

(15) “老哥，你是新来的吧？”

(「あんた、新入りだろう？」)(中日)

(16) 你们来了几天，习惯一点了吧？

(「皆さんはここに来てもう何日か経ちましたが、少しは慣れたしょうか？」)

(中日)

(14)～(16)では、話し手個人は命題(“已经过了十点了(もう十時過ぎた)”、“你是新来的(あんた、新入り)”、“习惯一点了(少しは慣れた)”)が真であることを期待している。話し手は自らの推量が正しいことを証明するために、命題内容の真偽を決定する権限を握っている聞き手に対して問いかけを行っている。話し手が自らの「推量」を聞き手に問いかけることにより、“吧”には聞き手に確認を行うという確認機能が生じてくる。聞き手に確認することによって、自らの推量が正しい方向に導かれることを、話し手は期待しているといえる。「推量確認」の“吧”((14) (15) (16))は「推量」の“吧”から拡張したものであるといえる。

2.2.2 「認識確認」の“吧”

前節では、「推量」の“吧”が「推量確認」の“吧”へ拡張したことを論じた。本節では「推量確認」の“吧”が「認識確認」の“吧”へと拡張するプロセスについて述べる。「推量確認」における「推量」の要素が消失し、「確認」の要素のみが残されることによって、「推量確認」の“吧”は「認識確認」の“吧”へと拡張する。「認識確認」の“吧”は、単に同様の認識を所有するために、聞き手に対して確認を行うという機能を持つ。

(17) 说来说去，我是四川人吧，还是我比你能吃辣。

(何のかのと言っても、私は四川の人間でしょう、やはり辛いものはあなたよりも強いですよ。)(木村・森山 1992:29)

(18) (話し手の忠告を無視し、聞き手が失敗を犯した状況で)

我早跟你说过了吧。谁叫你不听我的。

(あなたにはとっくに言っているだろう。言うことを聞けと言ったのに。)(作例)

(17) (18) のように、話し手が当該命題内容(“我是四川人(私は四川の人間)”、“我早跟你说过了(あなたにはとっくに言っている)”)を真であると捉えている場合でも、“吧”が使用される。(17) (18) において、話し手は、聞き手側にその命題内容に関する認識があるか否か、ということを確認しようとしている。つまり、話し手は“吧”を用い、双方が確実に把握している事柄を問いかけることにより、聞き手側に「このことについて、私と同じ認識を持っているだろう」と確認するのである。ここでも、聞き手から肯定的な回答を期待している話し手の意識が読み取れる。この点において、「認識確認」の“吧”は「推量確認」の“吧”と類似しているといえる。(17) (18) の例に基づき、「認識確認」の機能を次のように規定する。

(エ) 「認識確認」の“吧”の機能：

命題が真であることを断定できる話し手が、聞き手側にその命題に関する認識があることに対して強く期待することを表す。

この場合、聞き手が通常認識力を備えていれば、認識できるのは当然だといった話し手の意識が示されている。また、聞き手が当該の事実を知っていることを把握している上で、更なる確認行為を行うので、「再確認」のようなものでもある。

(19) 她站在拉开的屋门前，突然拍着双手，发出一声惊喜的叫喊：“啊，燕宁！”她如获至宝地一把将燕宁拉进屋里，以得胜者的喜悦说：“看，我说燕宁会来的吧！”(略)

(彼女は開いた扉の前に立ち、突然両手を叩いて、喜びの叫び声をあげた。「燕宁！」一等賞をとったみたいに燕宁の手を引いて戻ると、彼女は勝利の笑みをたたえて告げた。「ほら、燕宁はきっと来るって言ったでしょう！」)(中日)

(19) は、話し手が以前に「燕宁が来る」と言ったことを聞き手は当時納得していなかった。その後、当時言ったことが目の前で現実となった。“以得胜者的喜悦说(勝利の笑みをたたえて告げた)”という地の文から、話し手が聞き手に見せびらかすために、話題の人物(燕宁)

を聞き手の目の前に引っ張り出したことが分かる。そうすることによって、「ほら、私が言った通りでしょう」と聞き手に再び確認する。(17)(18)(19)から、「認識確認」の“吧”の使用には、話し手が「聞き手は命題を認識することが可能である」という見込みを持っていることが前提となる。

次に、命題を認識することが可能と思われる聞き手に、自分と同じ認識を有するよう働きかける場合に用いられる「認識確認」の“吧”を見てみたい。

(20) 丈夫：书都没买，你还这么严！

妻子：你是没买书，可买烟就花了98元，你看看，我身上这裙子，已穿了两年，也该换了吧？

(夫：本もまだ買っていないのに、君はなんて（お金に）けちなんだ！

妻：確かに本は買っていないけれど、煙草を買うのに98元も使っているわよ。

ほら、私が履いているこのスカート、もう二年も着ているのよ。そろそろ買い換えるべきでしょう？) (CCL)

(21) 这剧本再不好，这几天几夜，我总算是花了一点儿心血吧？ 我不是为个人，我完全为工作。

(この台本がどんなにひどくても、この連日連夜、とにかく僕が少しは心血を注いだといえるでしょう？ 僕は自分のためではなく、完全に仕事のためにやったんだ。) (中日)

(20)では、スカートの購入に関して、妻は夫に対し、自分と同じ認識を有するよう働きかけている。また(21)では、自分が台本のために頑張ってきたことを、聞き手に対して同じように認識してほしいという話し手の願望が込められている。“吧”を用いて自分と同じ認識を有するよう、あるいは受け入れるように聞き手に働きかけることは、換言すれば聞き手に同意を求める行為である¹⁶⁾。聞き手に対し同じ認識を持ってほしいと要求することは、自分に同意してほしいという願望に繋がると考えられる。

さらに、話し手が自分自身を聞き手とし、自らの考え方や動きを確認したり、同意を求めたりする場合にも“吧”が使用される。

(22) 好吧，咱们现在就去。(いいですよ。早速行きましょう。)

(23) 行吧，明天我来。(いいですよ。明日来ましょう。)

(刘月华等 1983:245)

(22)の“好吧(いいですよ)”は今から「行く」という動きが妥当か否かを、(23)の“行吧(いいですよ)”は明日来るか否かを自分自身に確認するものである。

以上、「認識確認」の“吧”は、同じ認識を持つことが可能な聞き手に対して確認を行う作業を通し、命題内容への再確認を求めたり、同じ認識を持つよう、あるいは受け入れるように働きかけたりする目的で用いられると考えられる。「認識確認」の“吧”が有する確認の機能は、「推量確認」の“吧”から継承されたものであり、「認識確認」の“吧”は「推量確認」の“吧”からの拡張であるといえる。

2.2.3 二つの確認機能の相違点

本節では、形式面から「推量確認」と「認識確認」との相違を検討する方法として、諾否疑問文の“吗”との置き換え、“你知道吧/你知道～吧(あることを知っているでしょう)”の付加、推量副詞“一定(きっと)”との共起性を取り上げる。まず、説明の便宜上「推量確認」と「認識確認」の例を再掲する。

(24) 你是赵先生吧? (= (2))

(あなたは趙さんでしょう?)

(25) 我早跟你说过了吧。谁叫你不听我的。 (= (18))

(あなたにはとっくに言ってあるだろう。言うことを聞けと言ったのに。)

第一に、「推量確認」と「認識確認」の“吧”は、諾否疑問文の“吗”との置き換えが可能であるか否かにおいて異なる。

(26) 你是赵先生吗?

(27) *我早跟你说过了吗。

(26)では、命題内容の真偽を最終的に判断できるのは聞き手であった。そのため、話し手は“吗”を用い、命題内容の真偽を聞き手に問うことができる。一方(27)では、話し手、聞き手双方とも、命題内容に関する事実を把握している。そのため、“吗”を用い、聞き手に命題内容の真偽を問う必要がない。よって、(27)では“吗”の使用が不自然となる。

第二に、“你知道吧/你知道～吧(あることを知っているでしょう)”の付加が挙げられる。“你知道吧/你知道～吧(あることを知っているでしょう)”は、話し手が聞き手に当該命題内容に関して、同じ認識を有していることを喚起するために使用されることが考えられる。

(28) ?你是赵先生, 你知道吧?

(29) 我早跟你说过了, 你现在知道了吧。

(28)において、「趙さん本人」であるか否かは、聞き手自身しか判断できない。よって、話し手と聞き手は当該命題内容に関し、同じ認識を有していないといえる。そのため、(28)では“你知道吧(あることを知っているでしょう)”が用いられにくい。一方、(29)は(28)と異なり、話し手と聞き手双方が共に“我早跟你说过了(あなたにはとっくに言ってある)”という事実を把握している。この事実を基盤とし、話し手は聞き手側に「このことについて、私と同じ認識を持っているだろう」と確認することが可能となる。よって、(29)は“你知道～吧(あることを知っているでしょう)”を付加することができる。

第三には、推量副詞“一定(きっと)”との共起関係が挙げられる。

(30) 你一定是赵先生吧?

(31) ?我一定早跟你说过了吧。

(30)の「推量確認」の“吧”は事柄を推量的に捉えるものである。そのため、(30)は推量を表す副詞と共起しやすい。一方、(31)の“我早跟你说过了(あなたにはとっくに言ってある)”は、話し手にとって一つの事実である。(31)が不自然となるのは、事実である事柄が推量を表す副詞と共起しにくいからであると推測される。以上の三つの現象から、「推量確認」と「認識確認」の分類は統語的にも妥当であることが検証されたであろう。

2.3 「促し」の“吧”

2.2では、“吧”が聞き手を対象とし、自らの推量が正しいことを確認する「推量確認」機能から、命題内容に対し同じ認識を有するように働きかける「認識確認」機能へと拡張することを論じた。本節では、「認識確認」の“吧”が“吧”の三つ目の機能である「促し」の“吧”へと拡張するプロセスについて考察する。

第2節において、「促し」の“吧”は聞き手にある行動を実行させるよう働きかける際に用いられると述べた。

(32) 这里不要你, 你去吧。

(ここはあなたを必要としていない。余所へ行きなさいよ。)

(33) 你安分些吧! 何苦讨人厌。

(分相応にしなさいよ! なぜ人に嫌がられることばかりするの。)

(吕叔湘 1990/2004:302)

話し手の立場から見ると、(32)は聞き手が余所へ行くべきなのに、その動きを実行しないままであること、(33)は聞き手が分相応にするべきなのに、なかなかそのようにしてくれない状況を示す。(32)(33)では、話し手は聞き手の動きが自分の期待(余所へ行くこと、分相応にすること)に添うように働きかけるために“吧”を用いると考えられる。本稿では“吧”の「促し」機能を次のように規定する。

(オ) 「促し」の“吧”の機能:

話し手がある事態が実現することに対して強く期待することを表す。

では、なぜ「促し」の“吧”には聞き手の行動に対して強く期待するという意味が含意されるのか。それは「促し」の“吧”の使用条件と関わっている。(32)(33)の“吧”はある特定の状況の下で使用されている。(32)では、聞き手がその場に必要とされていない状況、(33)では、聞き手が人に嫌がられている状況を、話し手と聞き手が共に理解している。即ち、話し手と聞き手は共にそれぞれの発話状況に対し、同様の理解を有しているといえる。ここで、第1節で挙げた例を再掲する。

(34) (いきなり聞き手に命じる場合)

a. 你过来! (来なさい!)

b. ?你过来吧! (来なさいよ!)(=(4))

(34)の状況では、“吧”を伴った(34b)は不自然であるのに対し、(35)のような発話状況であれば、“吧”は使用可能となる。

(35) 男：“(略) 你在哪儿？”

女：“我在家里，没什么事，可能是最近没休息好，所以觉得特别累，睡一觉就好了。”

男：“你看这样行不？ 一会儿，我陪你去一趟医院。如果医生说没事，你就在家休息。我也能放心。”

女：“那好吧！ 我在家，你过来吧！”（潇湘）

（男：「(略) 君はどこ？」

女：「家にいるわ。大丈夫よ。たぶん最近ゆっくり休んでいないから、すごく疲れを感じているの。一晚寝ていたら良くなるわ。」

男：「ねえ、こういうのはどうかな？ もう少ししたら、僕が病院に連れていくよ。もしお医者さんが大丈夫って言ったら、家で休んでもいいし。そのほうが僕も安心できる。」

女：「そう、分かったわ。家にいるから、来ていいわ！」

(35) は女が男の提案を聞いてから、男に許可を出す場合である。ここで、女の“你过来吧(来ていいわ)”という発話は男の提案（点線部分）を理解した上で出されたものである。そして、男側は自分が出した提案について、女側も理解しているだろうと考えている。つまり、(35) では男女双方がその発話状況に関して同様の理解を有しているのである。

次の(36) (37) も同様の解釈ができる。(36) はチケット売り場で係員にチケットを求める状況である。

(36) (一般的にチケットを求める場合)

a. 给我一张门票。(チケットを一枚ください。)

b. ?给我一张门票吧。(チケットを一枚くださいよ。)(=(5))

“吧”の使用が可能となる状況は次の(37)である。

(37) (ある特定のチケットを入手する場合)

(略) 我也知道一票难求，可是我打心底真的超想见到付辛博的，姐姐就给我一次机会好不好，就这一次，(略) 求求你赐给我一张门票吧！

(チケットが入手しにくいことは分かっています。でも、心から本当に付辛博に会いたくて堪らないのです。お姉さん、一回チャンスを下さいませんか。この一度だけでも。(略) お願いします。どうかチケットを一枚譲って下さいよ！)(=(7))

(37)の文脈から、話し手は自分がどれだけチケットを手に入れたいと思っているかを相手(お姉さん)に分からせようとしていることが窺える。そこから、相手に乞う前に、話し手の気持ちは相手側も理解していることが推察される。話し手は相手側とこのような共通の理解を持つ状況に基づき、“吧”を用いて“求求你赐给我一张门票吧!(どうかチケットを一枚譲って下さいよ!)”と発話したのである。以上の例に基づき、「促し」の“吧”の使用条件を(カ)のように規定する。

(カ) 「共通理解」:

話し手と聞き手双方が、当該発話状況に対して、共通の理解を持っていること。

談話場面において、「共通理解」という使用条件が整えば、「促し」の“吧”の使用が成り立つと考えられる((35)(37))。逆に、「共通理解」が整わなければ、「促し」の“吧”は使用不可能となる。(34)(36)の発話状況では、話し手と聞き手との間に共通する理解が見当たらないため、「促し」の“吧”の使用は不自然となる。

「共通理解」の妥当性に関し、もう一つ「勧誘」の例を挙げて検証する。(38)の状況設定は、これまで聞き手を昼食に誘ったことのない話し手が、いきなり聞き手を誘おうとする場合である。

(38) (いきなり誘う場合)

- a. 我们去吃午饭, 好不好? (お昼を食べに行かない?)
- b. ?我们去吃午饭吧。(お昼を食べに行こうか。)(作例)

(38)は突然の誘いの場面であるため、話し手と聞き手双方の共通理解を確立する発話状況すら存在していない。よって、(38b)は不自然となる。もし、(39)のように話し手と聞き手の「共通理解」が満たされる状況を設定すれば、“吧”は使用可能となる。

(39) (いつも一緒にお昼を食べに行っている仲間を誘う場合)

我们去吃午饭吧。(お昼を食べに行こうか。)(作例)

(39)では、話し手と聞き手両方が「いつも一緒にお昼を食べに行っている」という状況を理解している。話し手はこの状況に基づき「今日も一緒に食べに行くだろう」と考え、聞き手を誘ったといえる。「共通理解」の存在があるからこそ、聞き手に対して、自分の期待に添うように強く期待することができると考えられる。

「共通理解」という観点で“吧”がある命令文とない命令文を考えると、次のように解釈することができる。

- (40) a. 你过来！（来なさい！）
 b. 我弄好了，你过来吧！（終わったので、来ていいよ！）

(a) は単に相手に来ることを命令するものである。相手が命令通りに来るかどうかについて、話し手が全く予想を立てていないといえる。一方、(b) では、“吧”が発せられる前に、話し手が聞き手と“我弄好了（終わったので）”という発話状況を共有していることが分かる。そのため、話し手は「用事が終わったことを聞き手に伝えたので、聞き手が言われる通りに来るだろう」という予想を立てている。ここで話し手と聞き手が共有している発話状況の“我弄好了（終わったので）”はまさに本稿で論じる「共通理解」のことである。相手と共有する理解を前提にした上で発話するため、相手の行動に対して強く期待することが可能であると考えられる。

2.3の冒頭で、「促し」の“吧”が「認識確認」の“吧”から拡張されたものであると述べた。「共通理解」はそれを証明する一つの根拠にもなる。2.2.2で既述したように、「認識確認」の“吧”は、当該命題に関する認識が聞き手にとっても認識可能であると判断した上で、確認の作業を行ったものである。「促し」の“吧”も、発話状況に関し、聞き手側が共通の理解を持つことが可能であると判断した上で用いられる。話し手が発話する際に、聞き手と何かを共有していることが、「認識確認」の“吧”と「促し」の“吧”が使用される際の重要な前提である。そのため、両者は類似しているといえる。「共通理解」は「認識確認」の“吧”から継承されたものだと考えられる。

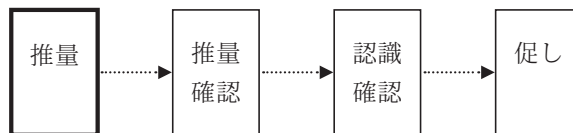
さらに、もう一つの根拠として、「認識確認」の“吧”における確認機能は「促し」の“吧”にも見られる。「認識確認」の“吧”では、確認作業として、当該命題内容を聞き手に持ち掛けることによって、聞き手にも事柄の認定を定める余地が生じる。この「推量確認」から受け継がれた「確認」の要素が、「認識確認」の“吧”が「促し」の“吧”へ拡張していく際にも、受け継がれたと考えられる。

例えば、(39)の“我们去吃午饭吧（お昼を食べに行こうか）”では、話し手はいつも一緒に食事に行っているという共通理解に基づき、聞き手を食事に行くよう促すと同時に、聞き手に「行こう？」と確認をしている。つまり、(39)のような“吧”には、話し手の勧誘行動の裏に聞き手への確認意図が含意されているのである。そのため、その勧誘行動は強引に押し付ける類のものではなく、聞き手の意思を確認し、尊重した形での勧誘となる。このことから、「促し」の“吧”には場合によって語気緩和の効果が読み取れるのである。この語気緩和の効果

は、確認機能を帯びた“吧”から由来していると考えられる。よって、「促し」の“吧”に含意される確認機能は「認識確認」の“吧”から継承されたものであるといえる。

以上で述べた二つの根拠から、「促し」の“吧”は「認識確認」の“吧”からの拡張であると考えられる。両者の関連性を明らかにすることによって、「促し」の“吧”の使用条件が「共通理解」である理由と、従来指摘されてきた命令文における“吧”の語気緩和効果の由来についても明らかにすることができた。第2節での考察から、“吧”の機能拡張のプロセスを次のように示すことができる。太線で囲んだノードはプロトタイプの機能を表し、破線の矢印は拡張関係を示す。

図2.2 “吧”の機能的拡張のプロセス



“吧”の機能はプロトタイプの機能の「推量」から「推量確認」へ拡張し、続いて「認識確認」へと拡張して、最終的に「促し」になるというように一種の連続体を形成している。

3. “吧”のスキーマ関係

本節では、“吧”の複数の機能における相互関係をさらに明確に表すため、各機能とそれらに共通する上位の抽象的概念—スキーマ¹⁷⁾との関係について議論する。

まず、「推量」の“吧”と「推量確認」の“吧”との意味関係について考える。

- (41) 「推量」 : 明天下雨吧。(=(1))
 (明日は雨だろう)
- (42) 「推量確認」: 你是赵先生吧? (=(2))
 (あなたは趙さんでしょう?)

(41)では、話し手は“明天下雨(明日は雨)”という事態が真である可能性が高いと期待している。(42)は“你是赵先生(あなたは趙さん)”という話し手自らの推量を聞き手に確認している例である。この場合、話し手は、聞き手への確認を通じて、“你是赵先生(あなたは趙さん)”という自らの推量が正しい方向に導かれることを期待している。

つまり、話し手が期待しているのは、(41)では、“明天下雨(明日は雨)”という事態が起こること、(42)では、自らの推量(“你是赵先生(あなたは趙さん)”)が聞き手により正しい

方向に導かれるという事態が起こることである。このことから、「推量」の“吧”と「推量確認」の“吧”両者の共通点として、「事態が起こる蓋然性が高い」というスキーマが抽出できる。また、前者は「推量」という要素を含むのに対し、後者は「確認」という要素を含み、明らかに異なる面もある。つまり、両者は相違点もあるが、共通点もあるということである。

「推量」の“吧”と「推量確認」の“吧”には共通点があるため、両者を明確に弁別できない場合がある。

(43) 「推量」の“吧”

甲：明天天气怎么样？（明日の天気はどうですか）

乙：明天下雨吧。（明日は雨だろう）（=（1））

例えば、(43) では、甲が明日の天気について全く知らない場合、乙の発話の“明天下雨吧”の“吧”が「推量」と解釈される。しかし、(43) の“吧”は「推量確認」と解釈される場合もある。

(44) 「推量確認」の“吧”

（甲が天気予報士である場合）

乙：明天下雨吧？（明日は雨だろう？）

甲：而且是大雷雨。（しかも大雷雨だよ。）

(44) では、天気予報士の甲は明日の天気について、乙より詳しく知っているはずである。この場合、乙の発話の“明天下雨吧”の“吧”は「推量確認」として解釈されやすい。このことから、“吧”の機能が「推量」であるか、「推量確認」であるかを認定するには、その談話の場における状況が関わってくると考えられる。

次に、「推量確認」の“吧”と「認識確認」の“吧”との意味関係を考えてみたい。

(45) 「推量確認」：你是赵先生吧？（=（2））

（あなたは趙さんでしょう？）

(46) 「認識確認」：我早跟你说过了吧。谁叫你不听我的。（=（18））

（あなたにはとっくに言ってあるだろう。言うことを聞けと言ったのに。）

(46) では、聞き手側に対して、その事柄について、自分と同様の認識（“我早跟你说过了（あなたにはとっくに言ってある）”）を有することを話し手は強く期待している。即ち、話し手の

期待とは、自分と同様の認識を持つという事態が起こることである。このことから、「認識確認」の“吧”にも「事態が起こる蓋然性が高い」という意味が存在すると考えられ、「認識確認」の“吧”と「推量確認」の“吧”のスキーマとして、「事態が起こる蓋然性が高い」という意味が抽出できる。一方、「推量確認」の“吧”には「推量」という要素があるのに対し、「認識確認」の“吧”には「認識」という要素が存在する。両者には相違点も存在し、完全に同じものではなく、類似の関係にあることが確認できる。

また、類似の関係にあるということは、「推量確認」の“吧”と「認識確認」の“吧”を明確に区別できないことをも示唆していると考えられる

(47) 「推量確認」の“吧”

(明日乙が行くかどうか不確かな場合)

甲：明天你去吧? (明日行くでしょう?)

乙：去啊。(行くよ。)(作例)

(47)の“吧”は「あなたは行くでしょう」という推量を聞き手に確認する例である。この場合、“吧”の機能は「推量確認」に属すると認定することができる。しかし、(47)の“吧”は「認識確認」としても解釈できる。

(48) 「認識確認」の“吧”

(明日乙が行くことを確実に知っている場合)

甲：明天你去吧，别迟到啊。(明日行くでしょう、遅刻しないでね。)

乙：知道了。(分かった。)(作例)

(48)では、「乙が行く」ことは甲にとって既に確実な事柄である。甲が確認しようとしているのは、乙も自分と同様の認識を持っているかどうかということである。このことから、(48)の“吧”の機能は「認識確認」と解釈される。

最後に、「認識確認」の“吧”と「促し」の“吧”の意味関係について考える。本来ならば「促し」の“吧”は談話場面においては、相手に対して自分の期待に添うように働きかけるためのもので、その性質は「推量」、「推量確認」、「認識確認」と異なるはずである。そのため、「促し」の“吧”は「事態が起こる蓋然性が高い」というスキーマの具現化として捉えることが難しい。しかし、「促し」の“吧”は“吧”の用法の一つとして既に定着しており、“吧”の他の機能と必ず何らかの関連性があると考えられる。

既に2.3で論じたように、「促し」の“吧”は「共通理解」という前提で発話されたものであ

る。話し手は相手と共有する理解を前提にした上で発話するため、相手の行動に対して強く期待することができる。また、聞き手に対して、「言う通りに実行するだろう」と思い、自分の期待に添うように聞き手に働きかけることも可能となる。

- (49) 「認識確認」：我早跟你说过了吧。谁叫你不听我的。(=(18))
(あなたにはとっくに言ってあるだろう。言うことを聞けと言ったのに。)
- (50) 「促し」：我弄好了，你过来吧！(=(6))
(終わったので、来ていいよ！)

(50) では、聞き手との間に、“我弄好了 (終わったので)” という「共通理解」があるため、話し手は“你过来 (来ていい)” という事柄が聞き手によって実現される可能性が高いことを期待できるといえる。つまり、ある事柄が実現される可能性が高いことは、その事柄が起こる可能性が高いとも言い換えられる。このような観点から考えると、「促し」の“吧”にも「事態が起こる蓋然性が高い」という意味が存在し、「認識確認」の“吧”との共通点を見出せる。

また、「促し」の“吧”と「認識確認」の“吧”も共通点を持つため、両者を弁別しにくい場合がある。ここで、呂叔湘 1990/2004:309 の例を取り上げて説明する。

- (51) 「認識確認」の“吧”
时候也不早了，咱们走吧？(呂叔湘 1990/2004:309)
(もう晚くなったから、行きましょうか？)

本稿の観点で解釈すると、(51) の“吧”には話し手が「その場を去る」という認識について、同じ認識を持つことが可能である聞き手にそれを受け入れてほしいと意図することが示される。(51) の“吧”の機能は「認識確認」に属するといえる。

一方、(51) の“吧”は「促し」としても解釈できる。

- (52) 「促し」の“吧”
时候也不早了，咱们走吧！
(もう晚くなったから、行きましょうよ！)

(52) のように、文末に「！」を加えれば、話し手は聞き手に対してその場を去るよう促すために“吧”を用いていると解釈できる。

以上、「推量」の“吧”、「推量確認」の“吧”、「認識確認」の“吧”、さらに「促し」の“吧”はいずれもある事態の起こる確率に対し、断定はしないが、ほぼそうである可能性が高いことを表す、という点で共通している。以上の分析結果を図3.1のように図式化する。実線の矢印はスキーマ関係を表す。

図3.1 “吧”のカテゴリ

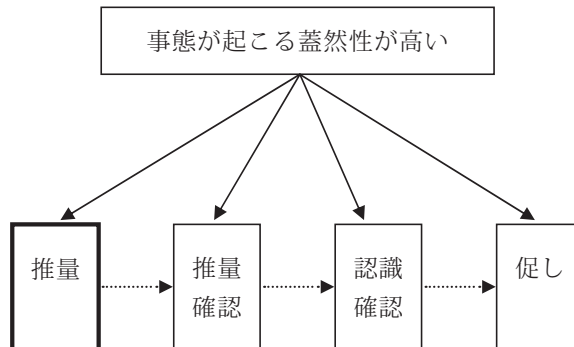


図3.1の“吧”のカテゴリにおいて、「事態が起こる蓋然性が高い」という意味は「推量」の“吧”、「推量確認」の“吧”、「認識確認」の“吧”、「促し」の“吧”のスキーマである。

図3.1のように、“吧”の各機能が連続体をなしていることは、実際に“吧”の各機能が類似しており、明確に区別できないことをも示唆している。これについて、呂叔湘 1990/2004 は既に“吧”の「推量」、「確認要求」、「促し」といった三つの機能が相関していることを指摘している。呂叔湘 1990/2004:309 は「確認要求の語気は促しの語気と似ており、両者はともに動作と関わっているものである。一方、確認要求の語気は推量の語気と近似しており、両者はともに確定しているようで確定していない表現である。（“商量语气一方面和祈使语气相近，同是和行动有关；一方面又和测度语气相近，同是定而不定之辞。”）」と論じている。この指摘は本論文の主張の傍証となる。

4. まとめ

本稿では、“吧”の各機能間の拡張関係が「推量→推量確認→認識確認→促し」であることを明らかにした。また、従来論じられなかった「促し」の“吧”の使用条件の存在を指摘し、その使用条件を「共通理解（話し手と聞き手双方が、当該発話状況に対して、共通の理解を持っている）」と定義した。これを明確することによって、「認識確認」の“吧”と「促し」の“吧”との関連性が明らかになった。さらに、複雑に見られた“吧”の四つの機能から「事態が

起こる蓋然性が高い」という共通の意味を見出すことも可能となった。“吧”の各機能間の拡張関係とスキーマ関係を論じることによって、“吧”が形成するカテゴリー全体を統一的に捉えることが可能になった。なお、“吧”は文中に置かれることもあるが、文中の“吧”と本稿で論じた“吧”との関連性についての考察は今後の課題としたい。

注

- 1) 胡明扬 1981b、朱德熙 1982、吕叔湘 1990/2004、木村・森山 1992、荒川 1995、邵敬敏 1996、张谊生 2000、齐沪扬 2002、徐晶凝 2008 等。
- 2) 于康・张勤 2000:165。
- 3) 于康・张勤 2000:165。
- 4) 吕叔湘 1990/2004、邵敬敏 1996、齐沪扬 2002 等は、“吧”の意味・機能を主に「推量」、「確認要求」、「命令」の三類に区別している。
- 5) 于康・张勤 2000:165。
- 6) 卢英顺 2007:80 も同様の指摘をしている。
- 7) 吕叔湘 1990/2004、邵敬敏 1996、齐沪扬 2002 等。
- 8) いわゆる従来議論されている「命令」である。
- 9) この現象については 2.2 と 2.3 で詳しい議論を行う。
- 10) 一般的に用法上の制約が比較的少ないものはプロトタイプの機能として認定されやすい。それに対して、用法上の制約が相対的に多いものは非プロトタイプの機能（拡張機能）として認定されやすい。詳しくは、Taylor1995 を参照。
- 11) 木村・森山 1992 は当該の“吧”を「同意の促し」もしくは「確認の要求」と呼んでいるが、ここでは統一的に「確認要求」と呼ぶ。
- 12) ①について、木村・森山 1992:30 は「情報内容への接近度が話し手より聞き手の方に高く、内容に対する話し手の確信の度が相対的に低い情況」と説明している。
- 13) 原文（木村・森山 1992:30）における例文を全て掲載する。
 甲：我没带手表。你有吗？
 （私腕時計をしていないのですが、あなたおもちですか？）
 乙：我有。（もっていますよ。）
 甲：已经过了十点了吧。（もう十時過ぎたでしょう。）
- 14) 本稿での、“吧”の二つの確認要求機能に関する説明は三宅知宏 1996 の研究成果に負うところが大きい。
- 15) 従来から「推量確認」の“吧”は「疑問語気詞」であるか否かに関して議論がなされている。「推量確認」の“吧”を「疑問語気詞」として認定するものには、陆俭明 1984 等が挙げられる。陆俭明 1984:336 は、“吧”は「疑問を表す語気詞と疑問を表さない語気詞の中間にあるものである（“它介乎疑问语气词和非

疑問語気詞之間)』と述べ、文のタイプ(疑問文であるか、陳述文であるか)によって、その疑問の性質が強まったり、弱まったりするものであると主張している。

それに対して、“吧”を「疑問語気詞」とは見做さないものには、胡明揚 1981b 等がある。胡明揚 1981b:416 は「疑問の語気は疑問文そのものから来ているものであり、“吧”と無関係である(“疑問語気是由疑問語調决定的, 和‘吧’无关)』と論じている。本稿は胡明揚 1981b の論点を支持し、文末語気助詞“吧”は疑問語気詞ではないと考える。それは疑問文における“~吧?”を陳述文(“~吧。”)に変えると、疑問の語気がなくなることからも分かる。“吧”そのものに疑問の語気があるのだとすれば、陳述文の“~吧。”に変えても疑問の語気が依然として存在しているはずである。しかし、実際にはそうではない。したがって、“吧”は疑問の語気とは関係のないものであると考えられる。

16) この“吧”は呂叔湘 1990/2004、木村・森山 1992、邵敬敏 1996 で指摘される「同意を求める」“吧”に相当すると考えられる。

17) スキーマとはカテゴリーのすべてのメンバーあるいは一部のメンバーに共通する抽象的な意味を表す。これについては、Langacker 1987 を参照。

参考文献

- 荒川清秀 1995 「中国語の状態動詞」『語学研究大会論集』3, 大東文化大学語学教育研究所
于康・張勤編 2000 『中国語言語学情報シリーズ1 語気詞と語気』好文出版。
王志英 1999 「中国語の語気助詞“吧”の伝達機能」『中国語研究』41, pp.8-17.
木村英樹・森山卓郎 1992 「聞き手情報配慮と文末形式—日中両語を対照して—」大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』くろしお出版
呉紅哲 2002 『『ダロウ』と『吧(ba)』の確認要求用法の比較』『岡山大学大学院文化科学研究科紀要第13号』, pp.256-244.
黄琬婷 2009 「中国語の語気助詞“吧”に関する一考察—確認要求機能を中心に—」『言語文化学』Vol.18, 大阪大学言語文化学会, pp.29-40.
三宅知宏 1996 「日本語の確認要求的表現の諸相」『日本語教育』89, 日本語教育学会, pp.111-122.
- 北京大学中文系 1955、1957 級语言班編 1996 《现代汉语虚词例释》商务印书馆
贺阳 1992 〈试论汉语书面语的语气系统〉《中国人民大学学报》5, pp.59-66.
胡明扬 1981a 〈北京话的语气助词和叹词(上)〉《中国语文》5, 商务印书馆, pp.347-350.
胡明扬 1981b 〈北京话的语气助词和叹词(下)〉《中国语文》6, 商务印书馆, pp.416-423.
刘月华・潘文娉・故鞅著 1983 《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
陆俭明 1984 〈关于现代汉语里的疑问语气词〉《中国语文》5, 商务印书馆
卢英顺 2007 〈“吧”的语法意义再探〉《世界汉语教学》3, 北京语言学院出版, pp.79-85.
吕叔湘 1990/2004 《吕叔湘文集 第一卷 中国文法要略》商务印书馆
吕叔湘主编 1999 《现代汉语八百词》(增订本) 商务印书馆

- 齐沪扬 2002 《语气词与语气系统》安徽教育出版社
邵敬敏 1996 《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版社
徐晶凝 2008 〈语气助词“吧”的情态解释〉《现代汉语话语情态研究》昆仑出版社
张谊生 2000 《现代汉语虚词》华东师范大学出版社
朱德熙 1982 《语法讲义》商务印书馆

Langacker, Ronald W. 1987. Foundations of Cognitive Grammar. Volume I: Theoretical Prerequisites.
Stanford: Stanford University Press.

Taylor, J. R. 1995. Linguistic categorization: prototypes in linguistic theory. Oxford University Press.

用例出典

- (CCL) : 北京大学汉语语言学研究中心现代汉语语料库检索系统。
(中日) : 『中日対訳コーパス』2003 北京日本学研究中心出版。
(中文网) : MTV 中文网 <http://www.mtvchina.com/home/>
(潇湘) : 潇湘书院 <http://read.xxsy.net/>
(作例) で明記しているものは筆者の作った例である。